

創世記を読む

「聖書教育」誌は4月から創世記を読んでいます。教会学校での学びは楽しいでしょうか？あまり読む意味がない？と思っておられるのでしょうか。

創世記をどう読むか？読み方によっては深い「問い」を発しているようです。なぜ太陽があるのか？なぜ月があるのか？なぜ人間は男がいて、女がいるのか？なぜ結婚するのか？なぜ寝ていても呼吸ができるのか？なぜ死ぬ(土にかえる)のか？「なぜ？」「なぜ？」と続けざまに問いを発してきます。「なぜ」と問われると天文学者もなぜ太陽があるのか、答えようがありません。「あるから、あるのです」。

人間の内面においても、「なぜ、してはいけないというと、人間はするのか？」。問いは限りなく続きます。創世記の記者は「今」「現在」という時点で問いを発するのです。

なぜジグラット(ピラミッドのような塔)があそこに廃墟になっているのか？なぜ通じない言語があるのか？なぜ大洪水が起こるのか？

なぜ死海はあのようになったのですか。死海の南にあったソドムとゴモラの町はなぜ埋没したのですか？なぜ人間のような姿をした塩の柱があるのですか？

5W1Hということが言われます。why(なぜ)、what(何を)、who(誰が)、when(いつ)、where(どこで)、how(いかに)を黙想しつつ聖書を読むと答え切れないことがたくさんあります。当然のことです。それゆえに聖書に聞(聴)いて行くのがキリスト者の歩みなのです。

(山下誠也)